

## 令和2年度 博物館施設 総合評価

施設名 自然の博物館

		達成	未達	達成見込
全館共通	数値目標による評価	0	4	0
各館独自	数値目標による評価	6	1	0

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	88	2	0
各館独自	チェックリストによる評価	16	0	0

### 自己評価総括

評 価	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、①令和2年4月1日～5月31日及び、②令和2年12月24日～令和3年3月21日は臨時休館となった。開館中は入館者数制限(70名)を行い、入り口にテーブルを設置し、検温、入館者カード記入を行うとともに、館内の換気、手すり等の消毒などの感染防止対策を行い、事故なく運営することができた。</p> <p>令和2年度はコロナ禍での博物館運営となり、臨時休館、事業の中止・変更等により来館者は減少し「1利用者数」等、全館共通項目は全て未達成となったが、館別独自項目の2～4の「満足度」は達成することができた。</p> <p>その他の館別独自項目では、重要な使命である「1資料管理」について、今年度から館有資料所在点検実施計画を定め、計画的な点検を行い、約1万1千点の確認を実施した。また、「7調査研究」では19件の成果発表を行い、「5学校利用」を除いて達成となった。</p> <p>コロナ禍における博物館運営を模索する中、当館ではホームページを積極的に利用し、バーチャル展示室や博物館クイズを設ける他、「#おうちでミュージアム」として動画配信を行った。また、特別展や企画展、イベント情報等をSNSで積極的に発信した。ホームページアクセスは約64万3千件(対前年度1.87倍)、ツイッター表示回数は約223万3千件(対前年度2.45倍)を得た。</p>
課 題	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、アウトリーチを含む利用者は目標値109,300人に対して実績値47,459人となるなど利用者が減少している。新型コロナウイルス感染拡大については予断を許さない状況であり、コロナ禍における運営を念頭に業務を行っていく必要がある。</p>
対 応 の 方 向	<p>臨時休館や外出自粛の状況がある中で、今年度、当館ではホームページやSNSを積極的に利用し、来館いただけない方への情報発信に一定の成果を見ることができた。また、「夏休み自由研究相談室」を「夏休み自由研究展示室」に変更して開催するなど内容変更での対応も行ってきた。今後、こうした取り組みを参考として、コロナ禍における博物館運営に取り込んでいく。</p>

## 評価結果に対するコメント

各館協議会・委員会の意見

- ・展示関係の満足度が高いのは、「古秩父湾」・「埼玉記念物100年」関連の展示などが良かったものと考えられる。
- ・学芸員の専門分野を活用した(かなり専門性の高い解説などもあってよい)配信用の動画ストックを多めに作成されてはどうか。昨年度は10本程であるが、少なくとももう10本ぐらい用意できればと思う。
- ・野外観察関係は、ほぼ中止となったが、密を避け、無駄な会話をしなければ開催しても感染の可能性は極めて低いと思われる。行政上の判断なので館独自の実施は困難かと思うが。
- ・全館共通項目の4件については、閉館期間の長さから見ても、やむを得ない範囲内である。
- ・館別独自項目のうち特に来館者の満足度と研究成果の発表は、目標値を上回っていて、十分評価されるべき。
- ・ホームページを利用した「バーチャル展示室」や「#おうちミュージアム」は、他館でもやっておられたかと思うが、学芸員の努力である。
- ・新型コロナウイルス感染症蔓延の中、開館日の縮小、入館者数の制限等の処置がなされ、結果的に利用者数の大幅減少となったことはやむを得ない。この中で館内展示の更新、資料管理の努力が着実に図られ、高い利用者の満足度が得られている。
- ・人気マンガとコラボした企画展の案内・解説は、ともすれば堅くなりがちの企画展にあって、若年層を中心に一般の参観者への親しみやすさを増加させ、効果的であったと思われる。
- ・ホームページを利用した様々な情報発信が工夫され、アクセス数の大幅増の結果に結びついたことは高く評価される。新型コロナウイルス感染症の推移が見通せない中で、ホームページやSNSを利用した情報発信は、今後ますます重要となるので、さらに充実するよう工夫されたい。
- ・従来から、量(数)よりも質や特徴を大切にする方針への変換ということを申し上げてきたが、部分的に実現されている。この機会を活かして、未達成の部分を、従来とは異なる形、ウェブなどでの発信や市民との交流などの新しい(異なる)手法での取り組みを進めていただけるとよい。国立科学博物館やほかの県博物館、美術館等でもそれぞれ独自の工夫を凝らしている例が散見される。
- ・日常の資料整理等が順調に行われたのは良い。
- ・対面活動のしにくい状況にあってインターネットを介した情報発信を進め、多くの県民から関心をもたれるコンテンツを供給したことは評価できる点である。
- ・博物館の資料収集整理保存や調査研究事業は長期的視点にたつて連綿と進められるべきであるが、コロナ禍にあっても例年以上に順調に行われたことはとても良い。
- ・テレビ番組で、貴博物館学芸員(地質)の楽しい解説に感動した。大きな宣伝効果があったと思う。